

令和5年度 都城市立五十市小学校 学校関係者評価書

段階評価(4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 ふつう 1 改善を要する)

重点目標	評価項目	評価基準	評価結果	自己評価	改善及び対策	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
<p>確かな学力の育成</p> <p>1 授業の工夫改善 ○授業力向上：県の示す「授業改善4+4のチェックポイント」による授業づくりとICT活用 ※メンターチームによる授業力向上 ○小中一貫教育に係る授業の展開 ○定着や習熟の時間の確保（日々の授業時間や単元テスト等、諸学力調査活用） ○学習訓練の徹底（発表や返事、ノート指導、忘れ物ゼロ） ※GIGAスクール構想～ステップ3の取組</p> <p>2 家庭との連携 ○ ICTの活用と見届け（家庭学習の手引きの見直し） ○ 読書のすすめと家読の推進</p> <p>3 特別支援教育の充実 ○ 支援体制の確立と関係機関との連携強化</p> <p>4 教職員の資質向上 ○ OJTとメンター方式の研修充実（初期研修者と共に向上）</p>	<p>授業改善</p>	<p>・85%以上の児童が意欲的に落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・100%の職員が、授業改善を意識して授業に取り組む。 ・全学級で効果的なタブレット端末の活用を図る。</p>	<p>○ 全校的に意欲的に学習に取り組むことができているが、職員は学習内容の理解について授業改善の課題を感じている。 ○ 全職員で、一人一台端末を活用した授業改善に取り組んでいる。 ○ 進んで読書に取り組んでいるという児童80%以上で、貸出冊数も昨年度よりも増えている。学校での児童の読書は推進されているが、保護者は家庭での読書はもう一息と感じている。 ○ 児童も保護者もおおむね家庭学習に進んで取り組んでいると考えているが、職員は取組の充実を感じている。</p>	<p>2.8</p> <p>職員 2.4 保護者2.7 児童 3.2</p>	<p>○ 本校の研究主題である「自ら学びにむかう子ども」に向けて、日々の授業で、話し合いの場の設定（アウトプット）、一人一台端末の活用等の実践に努め、授業改善を行っている。 ○ ICTの活用については職員研修やICT支援員の活用を行いながら活用方法についての理解を深めていけるようにする。 ○ 読み聞かせボランティアに学校に来てもらう時間を設定し、児童が本に触れる機会を増やすことで本への興味・関心を高めるようにする。また、図書館サポーターと連携しながら図書室でのイベント実施することで読書活動の推進を図っていく。 ○ 特別支援教育についての研修を計画的に実施するとともに、特別支援教育の視点から児童一人一人への理解を深めながら学習指導を工夫・改善を行えるようにする。 ○ 校内の主題研究で、各教科ごとのメンター班での研修を継続して実践することで経験豊富なベテランから若手までお互いに学び合いながら授業改善に取り組めるようにする。</p>	<p>3.4</p>	<p>・先生方のチームワークがよく行事等てきぱきと動かれスムーズに進められている。 ・授業参観の度に各クラス落ち着いて楽しく授業を受けている姿を見ることが出来ます。 ・アンケート結果では意欲的に学習に取り組むことができていると思う方が多いのですがこの結果が学力向上につながっていると嬉しく思います。 ・児童のタブレットを活用した学習は浸透しつつあり扱いも格段に上手になってきており先生方の指導工夫が授業参観でも見られました。しかし「文字を書く」（丁寧に書く、書き順等）部分は個人差があり今後の対応が必要かと思えます。 ・読書に関して児童、保護者間の評価差が大きい。本は借りてくるが、いつ本を読んでいるか分からない所が大きな差を生むのではないかと思う。 ・図書貸出冊数が増えていることは喜ばしい限りです。IT化の時代逆に減っているのではと危惧していましたが、学校、家庭での家読推進のおかげだと思えます。この結果が学力向上につながればと期待しています。 ・授業参観でも学校が特別支援学級の職員配置も含め理解力向上に努力していることが伝わります。 ・職員の研修への積極的な参加及び研修の発表の機会を設けて授業改善につながるができるよう期待しています。</p>
	<p>家庭学習</p>	<p>・児童が年間、低80冊、中70冊、高60冊の読書を楽しむ。 ・80%以上の家庭で家読ができる。 ・100%の職員がICTの活用を図り、80%以上の保護者がその効果を感じる。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.6</p> <p>職員 2.4 保護者2.3 児童 3.2</p>			
	<p>特別支援教育</p>	<p>・全職員が特別支援教育に理解を深め、実践と改善に努める。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.7</p> <p>職員 2.4 保護者2.7 児童 3.4</p>			
	<p>教職員の資質向上</p>	<p>・メンター方式の研修を通して全職員が充実を感じる。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.9</p> <p>職員 2.6 保護者2.7 児童 3.4</p>			
<p>豊かな心</p> <p>1 生活習慣の定着 ○ 共通理解と共通実践の徹底（「五小っ子のくらし」「さしすせそ清掃」） ○ 児童理解の充実と問題行動等の早期発見・早期対応【報告・連絡・相談】 2 生徒指導及び道徳教育の充実 ○ 積極的な生徒指導（生徒指導三機能を生かした学年・学級経営） ○ 道徳科の授業力向上（積極的な研修会への参加と伝達） 3 人権教育の推進～自信とやる気と誇りの育成 ○ 児童のよさの積極的な発信 ○ 地域行事への積極的な参加 4 教育環境の整備 ○ 無言清掃の徹底 ○ 計画的な設置と掲示</p>	<p>生活習慣</p>	<p>・90%以上の児童が気持ちの良いあいさつができる。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.7</p> <p>職員 2.4 保護者2.7 児童 3.1</p>	<p>○ あいさつについては、学年や学級で朝のあいさつ運動の実施や五十市小学校のあいさつ目標である「ISO1（アイ、エス、オー、イチ）」をしっかり行うことの大切さについて指導するとともに肯定的な声かけをしていくことで、気持ちの良いあいさつの実践力をができることを目指す。 ○ きまりの理由を考えさせながら、きまりを守ることの大切さについて継続して指導していく。また、人権教育についてはメンターによる道徳の研究授業や授業参観等の機会を設け啓発していく。 ○ 清掃については清掃開始のチャイム黙想を徹底することで落ち着いて掃除を行う気持ちを育てていく。</p>	<p>3.1</p>	<p>・登下校時のあいさつで声を出してあいさつする児童はほんのわずかで会釈する児童も半分ぐらいしかいない。 ・学校内でのあいさつはできているが登下校中のあいさつはほとんどない。 ・登下校時の「あいさつ」や一旦停車のお礼の「一礼」は見られるものの全体的には今一歩の状態のように思われます。今後も地域への挨拶活動やボランティア活動を増やして地域との関りを深めてほしいと思つています。 ・90%以上の数字について学校ではそうかもしれませんが地域においては50%に達していないので、学校以外でのあいさつについて改善を要す。 ・学校でも登下校でも元気よくあいさつしてくれず。 ・きまりを守るということが理解できていないのではないかと家庭でも親とまでは言わないが、きまりを守るという認識ができるような指導が必要ではないか。 ・人権といつても幅が広く児童でも理解できないことがあると思うので、機会あるごとに啓発をお願いしたい。 ・地域行事は公民館主催がほとんどで公民館に加入していない家庭が多く参加は少ない。 ・アンケート結果では保護者と職員の方との乖離が見られるが改善及び対策にあるよう清掃時の指導が大事と思つています。学校がきれいになれば児童も清掃の重要性を感じるのでは期待しています。</p>
	<p>生徒指導 道徳教育</p>	<p>・きまりを守る児童の割合が80%以上である。 ・道徳の授業を年1回保護者に公開する。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.9</p> <p>職員 2.6 保護者2.7 児童 3.4</p>			
	<p>人権教育</p>	<p>・90%以上の児童が学校が楽しいと感じる。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>3.1</p> <p>職員 3.0 保護者3.1</p>			
	<p>教育環境</p>	<p>・さしすせ掃除が100%定着する。</p>	<p>○ 児童は約80%が気持ちの良いあいさつをしていると思つているが、保護者、職員は60%を下回っている。 ○ 児童は90%以上が学校や家庭でのきまり守っていると考えているが、保護者、職員は60%程度であり意識の差が見られる。 ○ 約80%の保護者が校内の環境整備に肯定的である。職員は50%程であり清掃指導充実について必要性を感じている。</p>	<p>2.8</p> <p>職員 2.6 保護者3.0</p>			
<p>健康教育の充実と体力向上</p> <p>1 体力向上プランに基づいた体力向上 ○ 自己の目標設定と体育科指導の充実 ○ 集団行動様式の指導の徹底 ○ 外遊びの励行</p> <p>2 家庭と連携した効果的な取組の検討と実施 ○ 健康に関する個別指導の強化（早寝・早起き・朝ご飯と感染症対策の徹底） ○ 学校保健委員会の工夫と充実</p> <p>3 食に関する指導の充実 ○ 給食指導における常時指導の徹底 ○ 弁当の日の確実な実施</p> <p>4 安全指導の徹底 ○ 登下校指導の見守り ○ 安全意識の向上（防災教育の工夫と改善、交通事故防止、不審者対応等）</p>	<p>体力向上</p>	<p>・進んで運動に取り組み、元気よく生活できる児童の割合が90%以上である。</p>	<p>○ 80%以上の児童が、運動場や戸外で元気よく運動できている。 ○ 80%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができている。保健室だより等でも家庭への啓発を図ってきた。 ○ 90%以上の児童が歯磨きをできていると回答している。学校でも音楽をかけるなど給食後の歯磨き指導を行うことで習慣化を図っている。 ○ 登校班への指導を月に1回行ったり、放送で全校に指導したりするなど児童の安全な登下校ができるようになった。</p>	<p>3.0</p> <p>職員 2.7 保護者2.9 児童 3.3</p>	<p>○ 体力向上プランをもとに、体育の時間を軸に児童の体力向上に努めていく。 ○ 歯の治療率については年々良くなってきているので、今後も歯磨き指導と合わせて歯の治療についても保健だより等を中心に保護者への啓発を図っていく。 ○ 各地区や見守り隊としてボランティアで登校の様子を見守っていただいている方々との連携を図るため、メンバー等の再確認を行いシグフィーでの連絡など体制を整えていく。また、下校中に走らない、黄色帽子の着用など安全な登下校について指導を徹底するとともに、職員による立ち番指導を状況に応じて適宜実施していく。</p>	<p>3.3</p>	<p>・最近広場等で遊ぶ児童をあまり見かけなくなつた。 ・コロナ禍で大変な時期もあつたと思つています。野外での運動を充実させて更なる体力の向上に努めてほしい。 ・「保健室だより」等の広報による周知のおかげで大幅な効果があつたと思つています。今後も広報を主として健康に関する情報の発信を期待しています。 ・最近食育の重要性が増していると感じます。歯磨きの生活習慣については虫歯予防も含めて100%を目指してほしい。 ・遠くもないのに親が車で送迎する児童が増えている。 ・登下校の安心・安全のため色々な方策をしていることに対して大変な苦労があると思つています。しかし、一部車による登下校については検討が必要である。 ・登下校時、特に下校時おしゃべりしながら2～3列で歩いて帰る児童を見かける。 ・コロナ前と比元気よく活動する姿が色々な行事で見られました。安全面に関しては登校時、班長さんの下、一列で安全に登校する姿が見受けられましたが、下校時は2列になったり、ぶぎけたりとヒヤリとする場面が見られましたので更なる安全指導をお願いします。（特に低学年） ・緑の線の安全ベルト側を線からはみ出すことなく登下校する姿が見られます。 ・ICT活用での視力の低下が気がかりです。今後の調査及びその結果次第での対応をお願いします。</p>
	<p>家庭との連携</p>	<p>・90%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができる。</p>	<p>○ 80%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができている。保健室だより等でも家庭への啓発を図ってきた。 ○ 90%以上の児童が歯磨きをできていると回答している。学校でも音楽をかけるなど給食後の歯磨き指導を行うことで習慣化を図っている。 ○ 登校班への指導を月に1回行ったり、放送で全校に指導したりするなど児童の安全な登下校ができるようになった。</p>	<p>2.9</p> <p>職員 2.4 保護者3.0 児童 3.3</p>			
	<p>食育</p>	<p>・90%以上の児童が手洗い・うがい・歯磨きの生活習慣が身に付いている。</p>	<p>○ 80%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができている。保健室だより等でも家庭への啓発を図ってきた。 ○ 90%以上の児童が歯磨きをできていると回答している。学校でも音楽をかけるなど給食後の歯磨き指導を行うことで習慣化を図っている。 ○ 登校班への指導を月に1回行ったり、放送で全校に指導したりするなど児童の安全な登下校ができるようになった。</p>	<p>3.0</p> <p>職員 2.4 保護者3.0 児童 3.5</p>			
	<p>安全指導</p>	<p>・全児童が、安全に登下校することができる。</p>	<p>○ 80%以上の児童が早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができている。保健室だより等でも家庭への啓発を図ってきた。 ○ 90%以上の児童が歯磨きをできていると回答している。学校でも音楽をかけるなど給食後の歯磨き指導を行うことで習慣化を図っている。 ○ 登校班への指導を月に1回行ったり、放送で全校に指導したりするなど児童の安全な登下校ができるようになった。</p>	<p>2.8</p> <p>職員 2.6 保護者3.0</p>			
<p>小中一貫と家庭・地域との連携</p> <p>1 家庭・地域との連携強化 ○ 学校運営協議会との密連携 ○ ふるさとを生かした学習活動の推進（地域人材と素材の積極的な活用）</p> <p>2 小中一貫教育の推進 ○ 合同授業研究会の実施と充実 ○ 保幼小連携の推進</p> <p>3 管理職による地域との連携深化 ○ 学校運営協議会・自治公民館長・見守り隊・民生委員等</p> <p>4 日常的な情報発信 ○ 学校だより・HP定期更新・生徒指導及び保健だより・新聞への投稿：各報道機関・きめ細かなメール発信等</p> <p>5 人材育成に関する行動計画 ○ 管理職による授業参観の実施とFB ○ コンプライアンスの意識向上と働き方改革の推進（管理職による声かけや校長室だより、時間管理、スクール・サポート・スタッフ等の効果的活用、会議縮減、ICT活用（C4th）定時退庁等）</p>					<p>○ 学校運営協議会では運営委員の方々に学校の活動状況等を授業参観やプレゼンテーション等で確認してもらい、本校のよさや課題について積極的に意見を出してもらい充実した協議となるように努める。 ○ 小中一貫教育については授業研究会を軸に各学校の課題や学習指導の在り方について協議を深めていく。 ○ 見守り隊や民生委員の方々との情報交換を行う場を設け、学校と地域が連携しながら児童の成長を見守っていけるようにしていく。 ○ 参観日の懇談や家庭訪問等の機会をとおして保護者の方とのコミュニケーション図り、学校と家庭が協力して教育活動に取り組めるようにしていく。また、ホームページや学校だよりを充実させることで、地域の方、保護者に学校の取り組みを理解してもらおうようにする。 ○ 校内の研修を計画的に実施し職員のコンプライアンス意識を高めていく。また、質の高い教育の実践に向けて会議の精選やスクールサポートスタッフの活用など、働き方改革を推進し教材研究等の時間を確保する。</p>	<p>3.0</p>	<p>・全体的に児童の評価が良いが職員からの評価は普通である。児童本人が良いと評価できていることは嬉しく思う。職員から児童へさらなる向上を指導してもらえばより良くなると思つた。 ・コロナ禍の影響もありませんが地域との連携が希薄になっていると思つています。例えば五十市まちづくり協議会が実施した「史跡巡り」「歩こう会」「竹灯ろう教室」等については五小の児童の参加が0に近い状況でした。半面「子ども料理教室」には五小の児童のたくさんの参加がありました。学校、地域との連携について内容も含め再考の余地があるのではと感じました。 ・情報発信の学校だより、HPの定期更新については学校の状況がよく分かります。今後も発信をよろしくお願ひします。 ・情報発信としてHPや連絡体制としてのsigfyの活用を上手く進められていると思つています。しかし、前記のコンテンツを利用できない方への発信を今後検討し、更なる地域との連携を進められることを期待します。 ・昨年度同様、HPの行事予定項目が記載されていないので今後検討していただくと保護者及び地域での連携や活用（安全パトロールの時間帯等）につながるのではないかとと思つています。 ・学校だよりやHP、メール送信などで学校の様子をよく知ることが出来ます。来年度は先生方と民生委員の意見交換、情報交換が行われることを望みます。</p>